

「音」で読み解く
防長の歴史

戦いノオト⑦

「大隊教練書（長門練兵場蔵版）」（一般郷土史料1329）

身体に刻まれる音 ～号令・号音～

【号令のはじまり】

現在、私たちは、「まわれー、みぎ」「まえへー、ならえ」「まえへー、すすめ」「ぜんたーい、とまれ」などの号令を聞けば、自然と体が動くことでしょう。実はこれらの号令も、幕末の西洋銃陣の導入と軌を一にしています。

西洋銃陣では、号令または号音によって隊が組織的に動きました。兵士には、号令を正確に理解し、行動に移す能力が求められました。またドラムによる号音についても、リズムを聞き分け、その意味を正確に理解しなければなりません。

この能力を身に付けるためには、相当な訓練が必要で、そのため、銃陣教練が藩校明倫館はもとより、県内各地で実施されました。

当館および県立山口図書館には、長門練兵場蔵版の「生兵教練書（写真右の上下：一般郷土史料1331）」、「小隊教練書」、「大隊教練書」、「散兵教練書」、「改正鼓譜」などの西洋銃陣の教練書が残されています。これらは教練指導のマニュアル書で、この内容に沿い、新兵に対し段階をお

て訓練が施されました。以下、これらの教練書から訓練の様子を見てみましょう。



【号令で動く ～「示動令」と「発動令」～】

教練書では号令を「示動令」と「発動令」の2つに分けて説明しています。

「示動令は声高く明瞭にして、語尾を少し伸ばす。また発動令は厳かにして、短く」とあります。例えば、「まわれー、みぎ」では「まわれー」の部分が示動令、「みぎ」



銃陣太鼓の授業

慶応元年（1865）、萩藩は三田尻に小学舎を設け、庶民への教育を行いました。

そこでは、手習い・素読・算術に加え、大鼓のたたき方や歩行訓練も大事な授業のひとつでした。

一日の時間割は次のようになっていました。

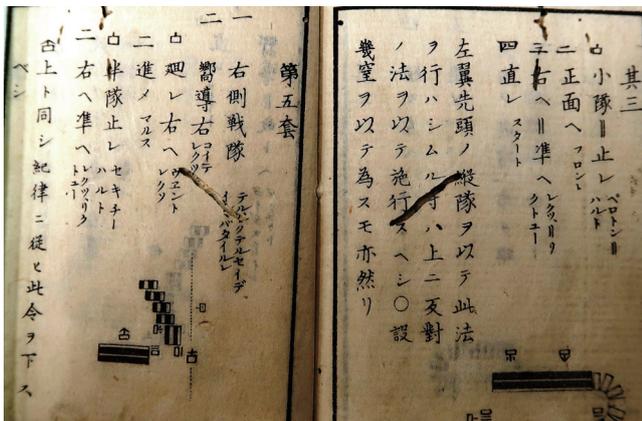
- 一、朝六つ時より五つ時まで素読
- 一、五つ時より九つ時まで手習
- 一、夕八つ時より七つ時まで算術
- 一、七つ時より七時半時まで大鼓歩法

藩をあげて太鼓奏者の育成に取り組んでいたことが見て取れます。

の部分が発動令です。示動令により行動の準備をし、発動令のタイミングで行動します。「まえへー、ならえ」も同様です。私たちの身体にも刻まれている号令の源流がここにあります。

【オランダ語から日本語による号令へ】

西洋銃陣の習得は、長崎海軍伝習所でオランダ式を学びました。その指導にはオランダ人教官がこれにあたったので、当然、隊の指示はオランダ語で行われました。次の資料は安政5年（1858）に刊行された「歩操袖珍 小隊略解」（志道家文書489）で、号令が日本語とオランダ語で書かれています。



例えば、「小隊＝止レ」は、オランダ語では「ヘロトン＝ハルト」（ヘロトンは「小隊」、ハルトは「止れ」）となっています。また「右へ＝準（なら）へ」は「レクツ＝リクトユー」、「進め」は「マルス」です。

この伝習に参加した前原一誠は友への手紙の中で、「号令は原語（オランダ語）で、一向に分かりも覚えられもしない」とこぼしています。聞いたこともないオランダ語による指示に伝習生たちは大いに戸惑ったことでしょう。

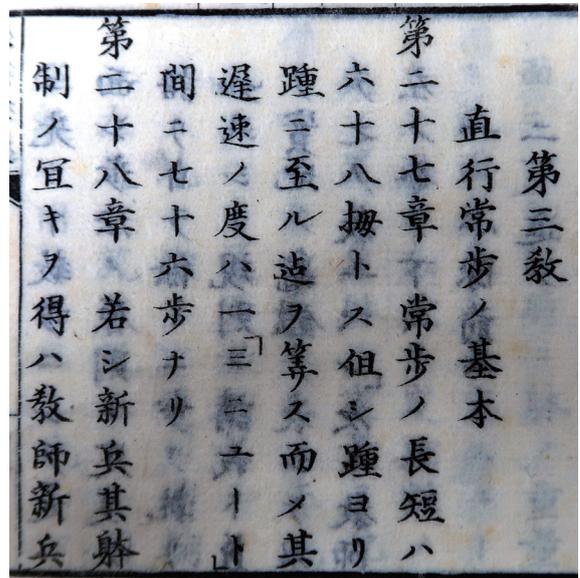
「長門練兵場蔵版生兵教練書」では、号令は日本語のみの記載となっていますので、この教練書の刊行の頃はオランダ語による号令から日本語による号令に切り替わっていたと考えられます。

【号音による指示】

シートNo.23で見たように、ドラムのリズムパターンで様々な指示が伝えられました。通常は号令とドラムによる号音が併用されたようですが、散兵戦術などの際、号令が届かない時はドラムの号音によって指示が出されました。また、全隊のうち、ある特定の隊のみに指示したい時には、第1連隊へは「第1マルス」行進曲、第2連隊へは「第2マルス」行進曲などと、隊を識別する曲が決まっていた、これを打って伝えられました。

【行進曲にあわせた歩行】

「生兵教練書」（一般郷土史料1331）では行進のテンポについて次のように定めています。



通常歩行は、1歩の間隔68cm、1分間に76歩とし、速足の場合は108歩と規定されていました。指導者はリズムをとるために、「一、二、一、二」と掛け声をするこも書かれています。

一定のテンポを保ち、集団で歩くことはそれまで日本にはありませんでしたが、伝習所のオランダ人教官の回想記によると、種々の研修や実習のうち、日本人はとりわけこの隊列による行進を好んだとのことでした。

下の史料は慶応元年に刊行された「歩操新式 下」（佐川家文書（大島町）1270）で、ヤッパンマルス（日本行進曲）の鼓譜です。ドラムを叩く、左右の手の動きとともに、「右、左、右、左、右、左…」の記述があり、これは行進の時の足の運びを表していると考えられます。ドラムによって演奏される行進曲のリズムは、集団で行進するのに適していました。

